

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価報告書  
(平成23年度事業分)

庄内町教育委員会

平成24年9月

## 1 点検及び評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第1項の規定により教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき作成するものである。

## 2 点検及び評価の手法

外部評価を行うこととし、下記の学識経験を有する者の知見の活用をするものとする。

第一次外部評価	学校教育	実務的専門家	鎌田 央	狩川東興野
	社会教育	実務的専門家	中里 健	鶴岡市宝町
第二次外部評価	総括	学問的専門家	和田 明子	東北公益文科大学

## 3 点検及び評価の対象

「平成23年度庄内町教育委員会の重点と施策」に基づいた学校教育と社会教育の「政策及び施策」レベルの事業

## 4 外部評価の内容

別紙報告書のとおり

## 平成23年度庄内町教育委員会外部評価報告書

和田 明子

本評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、教育委員会の権限に属する事務その他教育長の権限に属する事務の管理・執行の状況について点検・評価を行うものである。具体的にどのように点検・評価を行うのかは各教育委員会に任されているため、各教育委員会ではそれぞれ工夫と試行錯誤を重ねながら点検・評価を行っている。

具体的には、現地調査を伴わない書類上の点検・評価や、教育現場の担当者ではなく担当課長からのヒアリングのみの点検・評価を行っている教育委員会が多いようである。そのような中、学校・社会教育の実情に精通した二人の専門家が年間を通じて何度も現場に足を運び点検・評価を行うという貴委員会の方法は、「机上の空論」ではなく現場の実情に即した点検・評価を行うという意味で、たいへん望ましい方式であると評価される。たいへんな労力を費やし点検・評価を行っている鎌田先生と中里先生にあらためて敬意を表する。

貴委員会の点検・評価は、「庄内町教育委員会の重点と施策（以下、「重点と施策」という）」に基づき行われている。それ自体は望ましい方式であるが、「重点と施策」と教育委員会が策定している他の目標や計画（たとえば「学校教育」の分野でいえば、「庄内町の子ども像」「庄内町の教育の重点」「庄内町でめざす子どもの姿」「庄内町の子ども像の具現に向けて・・・」など）がどのような関係にあるのかが不明瞭であった。教育委員会の示す目標や計画の整合性・統一性を確保した上でそれらを明確に示さなければ、各学校や社会教育の現場は混乱するのではないだろうか。また、教育の現場で「重点と施策」があまり意識されていないのであれば、「重点と施策」に基づく点検・評価をしてもあまり意味がないということになってしまう。

鎌田先生（学校教育分野）からも教育委員会・学校間の連携強化の必要性が指摘されている。教育委員会として統一した教育目標の体系図を早急に示し、各教育の現場がそれに向かって教育活動を行っていただけるような体制の構築を望みたい。

1 子ども一人一人を生かす学びづくり

(1) 学び合い、自分なりの考えを持たせる授業づくり

○指導主事2人体制を存分に活用し、各校の学校研究を中核に、県教委事業や町教育研修所委嘱研究等も積極的に活用しながら、各校の授業改善構想と実践を丁寧に指導支援している。その結果、各校とも授業の中で一人一人に考えを持たせる自校なりの工夫・実践が多く見られるようになった。

◇立川小…『自ら考え自ら学び、他とかかわって学びを深めていく子どもの育成』  
(10/13 公開発表会開催)

- ・興味・関心，知的好奇心を揺さぶる課題提示と既習内容の活用
- ・子どもの課題意識や目的意識を大切にされた算数的活動の設定
- ・共同的な学びの場の設定 など

《学校評価アンケート結果より》

児童による評価…「学校・家庭での意欲的な学習」A・B評価 83%

「聴く・自分の考えを発表する」A・B評価 80%

保護者による評価…全項目でA・B評価が1～6%アップ

◇余三小…『自分の考えを伝え合う子どもの育成』(11/16 県授業改善プロジェクト事業実践報告会開催)

- ・興味を持たせる導入の工夫
- ・子どもの疑問を大切にされた課題づくりの工夫
- ・話し合いの中心となる「論点」の工夫 など

《学校評価アンケート結果より》

児童による評価…「自分たちで話し合い自分たちでやる活動は楽しい」

A・B評価 91%

「友達や先生に話をして伝えることが上手になった」

A・B評価 83%

保護者による評価…全項目でA・B評価が1～9%アップ

○国・県の事業（県費講師）をうまく活用するとともに、本町独自の措置も加えた各種支援員等の配置により、各校の実情に即し充実した人的教育環境づくりが図られている。TTなど個に応じた指導の大きな推進力となっている。

立川小…低学年副担任，高学年教科支援員，学習支援員，地域コーディネーター，事務補助

余一小…高学年教科支援員，少人数指導員，日本語指導員，学習支援員，地域コーディネーター事務補助

余二小…2年副担任，少人数指導員，学習支援員，地域コーディネーター，事務補助

余三小…非常勤講師，少人数指導員，学習支援員，地域コーディネーター，事務補助

余四小…非常勤講師，少人数指導員，学習支援員，地域コーディネーター，事務補助

立川中…1・2・3年副担任，学習支援員，特別支援講師，教育相談員，図書補助，事務補助

余目中…1年副担任，非常勤講師，学習支援員，特別支援講師，ALT，教育相談専門員，教育相談員（2名），図書補助，事務補助，嘱託業務員

- 理科教育の充実を目指して、「理科支援員派遣事業」を活用し，毎月曜に公益大3年生に5・6年生の理科実験の準備等をサポートしてもらう体制を作っている。（立川小）
- 指導力向上を目指し，教科等の専門的な外部講師を招聘して模範授業や研究会を行っている。（余四小・余目中）
- 学校研究を核に各校の研究実践を継続的に指導し，「一人一人に自分なりの考えを持たせる」ための指導過程の工夫や「一人一人の考えを丁寧にとらえる」という意識が各校に定着してきている。
- 成果を共有・活用するために，各校の研究・実践の意義やポイント，有効な手立て等を集約し，明確化を図りたい。（わかりやすくまとめたものを作成・配布するなど）
- 「学び合い」まで高めていくために，個々の考えを練り合いつなげていく指導過程の組み方や教師の中継力（教師の関わり方・支援の在り方）を向上させる手立てを工夫したい。

## （2）スクールカウンセラー配置事業

- 要請訪問（学校の要請に応じてSCを派遣する形式）以外に，教委主導で各校に1回ずつ訪問する機会を設定し，活用の拡大を図った。日常的な子供の様子をSCに見てもらうことにより，教職員の子どもの「見方」の幅を広げたり，見落としがちな課題を救い上げたりすることにもつなげたいという構想で，各校への働きかけを進めている。
  - SCを講師に養護教諭の部会研修を行いたいという希望もあったが，SCの都合により実現できなかった。教育相談担当にも働きかけ，日常的な子どもの観察をもとに，教職員の相談役やアドバイザーとしての側面からもSCの活用を検討していきたい。
- 平成24年度に養護教諭部会においてSCを講師に研修会を実施予定。

## 2 庄内町の気候風土，自然，社会，文化を学び，豊かな心を育む計画的な体験

### （1）自然（雪・風・名水）の中で豊かな心を育む

- 社会教育との連携を図り，教育活動の中に意図的に多様な体験の場を取り入れている。
- ◇立川小…川遊び体験，スキー大会，枝打ち体験
- より効果的な体験学習となるように，年間教育計画の見直しを図っている。
- ◇余二小…2学期制への移行に伴い，5年生の自然教室において月山登山を企画・

実施。

- 「森森」での宿泊学習が、庄内町のよさを体験・体感するよい機会となっている。南三陸町との交流学习においても、その体験が生きている場面が多く見られた。
  - 地域学習全般における個々の学習の有機的なつながりや成果（子どもの心の成長）の把握が難しい面がある。本町の自然条件を各校でどのように取り入れ、子どもの心を育てる教育活動を仕組んでいるのかを長期的なスパンで見ていく必要がある。
- (2) 学校支援地域本部事業
- 今年度より町内全小学校に本事業を導入。読書推進教育に活用し、地域コーディネーターを全小学校に配置。地域ボランティアとつなぎながら、学校図書館活動支援、読書活動支援を推進。
  - 子ども達の読書意識と読書量、教員の指導意識に伸びが見られる。
    - ◇余一小…「1年生の保護者から、たどたどしいながらも楽しんで読んでいるという声が多く聞かれた」「シリーズで借りる姿が多く見られ、選本に迷わない子が多い」（1学期教育評価）
      - 「たくさん本を読んでいる」A・B評価 84%（2学期児童アンケート）
    - ◇余四小…「図書室がどんどん充実してきている」「読書冊数もどんどん伸びてきている」（1学期教育評価）
    - ◇余二小…「図書室が非常ににぎわっている。貸し出し冊数が大幅に増えた」「子供たちの読書意欲が高まってきている。ボランティアの協力も大きい」（学校評価）
  - 国の指定、補助（地域コーディネーター配置）がある間に地域ボランティアの育成を図るべく地域住民への働きかけを各校に強く要請しながら、ともに工夫・支援している。
    - ◇立川小…学校図書館活動で文部科学大臣賞受賞。また、保護者や学区町民に広く呼びかけ新たに「図書館応援団」が組織され、定期的に活動。地域の先進校としての役割を担っている。
    - ◇余目中…地域コーディネーターの配置はないが、読書習慣の確立を目指し、担任もともに読書する朝読書を通年実施。読み聞かせ、読書フェスティバルなども実施している。

### 3 地域の学校としての特色のある学校づくりのマネジメント推進

#### (1) 施設・機会を生かすカリキュラム化

- ・通学路安全対策協議会の設立、地域で守る体制づくりの強化
  - ・教材、学習の庄内町化
  - ・自然体験学習（森森の活用）
  - ・北楯大堰を活用した授業づくり
  - ・内藤秀因展、ひまわりマラソン、亀ノ尾の里資料館
- 通学路安全対策協議会を設立・開催、学区の関係者が一堂に会し、意見交換を実施。「地域で守る体制づくり」の出発点となった。（立川小中・余二小・余三小）
  - 各校より委員を選出し、2年間をかけて地域素材を取り上げた副読本づくりを進めている。資料集として高学年まで使える内容を意図して編集、発刊した。

○子供の発達課題に対応できる地域素材が多く存するという当該町の利に着目し、教育的な活用を進めるために、社会教育や関係行政機関等との連携を図り、学校への取り次ぎやPR等の支援を行っている。

●特色ある豊かな教育を進めるためにも、地域素材をどう教育課程に取り込むか、社会教育をいかに学校教育に取り込むかが今後のさらなる課題である。

#### (2) 校長のリーダーシップとマネジメント力向上

○毎月の校長会において学校経営研修の時間を設定し、マネジメントを学び合う機会としている。

○各校ともに校長の明確な経営構想とリーダーシップのもと、豊かな教育活動を展開している。

◇余三小…教育目標をわかりやすく具体的なキーワード的な文言にし、学校研究と連動させたことにより、経営の中核として機能するものになっている。

《学校評価アンケート結果より》

教職員による評価…「目標は学級経営に生かされている」

A・B評価 100%

「教科・領域の学習に生かされている」

A・B評価 100%

保護者による評価…「方針や取り組みをわかりやすく伝えている」

A・B評価 99%

◇余一小…『余一小プラン』（学級経営案）を保護者に配布、保護者会で説明することにより学校一学級の系統性、学校の姿勢や担任の考えが明確に伝わる一助となっている。

《学校評価アンケート結果より》

保護者による評価…「教育目標」A・B評価 94%

●各校ともに職員・児童生徒・保護者による経営評価・学校評価（園は経営評価）を実施しているが、「課題の明確化・共有化」→「次学期・次年度の経営や具体的な取り組み」という流れ（評価を生かした教育実践）にはやや学校格差が見られる。PDCAシステムの強化を図る必要がある。

## 4 人間性の基礎を培う幼児教育の見直し・強化

### (1) 発達段階を踏まえた保育活動

○県「幼保小アドバイザー派遣事業」を活用し、余四小学区の幼保小連携について東北文教大学短期大学部の奥山准教授より指導を受ける。その際に余四幼の日常の保育を実際に見てもらいたい的確な指導をもらう機会が持てたことにより、その後の園内の研究協議会においても保育の本質的な課題について話し合うという方向性が示された。

### (2) 町民ニーズを取り込みながらの幼児教育体制づくり

- ・読み聞かせボランティアの活性化
- ・子育て相談の場の充実
- ・幼稚園教育での水泳実施

○「アクア庄内」での水遊びの機会を設定したことにより、専門家の適切な指導を受けて幼児の水遊びや水泳への意欲が高まった。併せて、場の工夫や指導法について職員が学ぶ機会ともなった。

●各園ともに子育てについての相談の場を設定しているが、実際の対応には課題も見られる。相談の受け方や基本的な対応の仕方等について研修の機会が望まれる。

◇町教育研修所の小中連携部会において、県教育センター出前講座を活用し保護者対応の研修会を実施。幼保にも参加を働きかけた。

## 5 命を育む教育活動の充実と推進

### (1) 自分のことは自分で守る教育

・CAP事業の全町展開（小5・中1）

○税務町民課主管の「人権活性化啓発事業」を活用し、今年度より全町の小5、中1を対象にCAP事業を導入。人権意識・エンパワメント・コミュニティーの理念のもと、ワークショップを開催。参加保護者へのアンケートでも7割以上が「よかった」と回答。

●意識の定着には、学校生活全般に亘り、意図的・継続的な指導必要か。生徒指導上の問題の改善・解消にもつながっていくものと思われる。

### (2) 自分を肯定する自尊心の向上

○関係行政機関との連携のもと、学校への積極的な情報提供や適時の働きかけを行った。その意を解して学校も様々な活動を展開し、「相手の身になって考える」「相手に喜んでもらえるよう工夫する」「自分たちのできることを考え実践する」心と力を育てることにつながっている。

◇町内小中学校に協力を呼びかけ、牛乳パック灯ろうを1000個作成、3月11日に当該教委指導主事が南三陸町に届け、慰霊した。また、町P連にも働きかけ、バス1台で当地を訪問。環境整備活動（窓磨き）を行った。24年度にもボランティア（ワカメの種付け）の要請があり、計画している。

◇立川小・余一小…修学旅行で南三陸町との交流を実施

◇余目中…国内交流事業の一環として南三陸町に自校栽培のトマトを持参

○当該教委、町教育研修所児童会・生徒会活動研修部の共催で、平成24年6月に「庄内町児童会・生徒会リーダー研修会」を実施。各校の活動を学び合い、自治活動の活発化を通して、自浄力の向上や自尊感情の高揚を図った。特に、児童会・生徒会活動への参加意欲や自治意識、学習意欲において二極化している現状を踏まえ、中間層の拡大を図る。また、各校の南三陸町支援・交流活動やボランティア活動についても意見交換し、大震災2年目の活動について各校の活動の工夫につなげている。

### (3) 給食を中核に効果的な食育推進計画づくりと実践力の向上

・おいしいごはん、おかずを提供できる給食

・栄養教諭の配置

・幼稚園給食の実施

○町情報発信課の「庄内町食育推進計画」に則り、栄養教諭と給食主任会が中心と

なり「バランスのよい食事」をテーマに各校で食育を実践している。

○幼稚園での「おかず給食」の実施を機に、食育活動の場として活用している。また、「おかず給食」によって多様な食材や献立に触れることにより、小学校での完全給食にも難なく対応できるようになっている。（「小一プロブレム」の一つの解消につながっている。）

○各校・園に食育担当の位置づけを依頼、担当者会により平成24年度中に食育計画を作成予定。

## 6 教員の資質向上

### (1) 庄内町の教員であるという意識の高揚

○教員を対象に年2回「町内めぐり」を実施。（5月：余目地域の産業 7月：立川地域の歴史）

本町教員の帰属意識や教育意欲の高揚につながっている。…「身近な所に教材がたくさんあり驚いた」「町内の歴史に触れ先人たちの偉業を知ることができた」「実際に見学しながらの地元教育長ならではの土地勘や解説がとてもよかった。地域素材の教材化におけるポイントや熱い思いを聞いた」「教材として生かしたい。地域のことを地域の子どもたちをしっかり伝えたいと思った」（町教育研修所課題別研修会「町内めぐり」アンケートより）

○町教育研修所の夏季研修会開催日に所員交流会を実施。本町に勤務する教職員の横の連携を図る機会としている。

●校長会等において「本町教員」としての意識付けや高揚について話題にし、継続的な取り組みを図る必要がある。→平成24年度に校長会主催による「ミドルリーダー研修会」を実施。40歳以上の教員（希望制）を対象に資質向上を図る。

## 7 社会で育てる子ども像に向けての実践の共有化（学社融合）

### (1) あいさつ運動

○6月より町及び町商工会とタイアップし全小中学校で「笑顔で元気なあいさつ運動」を実施。

各校工夫して特色ある活動を展開し、徐々に効果が上がっている。

立川小…「立川しぐさ」「あったか言葉」を推進

余一小…元気にあいさつ「いつもしている＋している」90%（1学期児童アンケート）

余四小…あいさつ当番活動を中心にしたあいさつの奨励、各学級のスローガン掲示による意識の高揚

### (2) 「早寝、早起き、朝ごはん」運動

○学力調査に伴う調査結果では、本町における朝ごはんの摂取率は高い。今年度は朝食の内容（何を食べているか）についてのアンケートを計画している。

## 8 学校教育施策・事業の総括

□教委と学校との距離感を縮め、教委の願いや具体的な活動への理解を図るという

観点から既存の事業を見直し，設定時期や内容を工夫する必要がある。(例 予算説明会など)

- 年度末に各校の経営評価や学校評価結果，それをもとにした次年度の経営構想・計画を教委として把握しておく必要がある。様式は各校独自でかまわないが，提出の義務付けと提出内容についてはきちんと確認しておきたい。
- 教委の重点施策についての各校の取り組み（計画や成果・課題等）を把握し，次年度の計画や重点化に反映させるために，ヒアリング等も検討したい。

## 1 はじめに

庄内町に足を運ぶたびに見られる光景は、各公民館の広場、多目的運動場そして「ほたるドーム」で運動する町民の多いことです。体を動かし、生きがいのある生活づくりに励む高齢者。いったいに、庄内町には、高齢者はいるけれど、老人はいないといった感じです。「住みたくなる、住みよい日本一のまちづくり」をめざし、高齢者のとびっきりの元気なまちづくり具体像が、そこに見られます。

平成23年度は、町の施策に3つの重点プロジェクト「子どもを安心して生み育てられるまちづくり・高齢者のとびっきり元気なまちづくり・農商工一体となった活気あるまちづくり」への取り組みが見られました。この3つの重点プロジェクトは、町の教育行政の「・活気ある地域づくり・生きがいづくり・青少年育成、家庭教育の充実・文化芸術活動の推進」の目標に向かって、諸事業が展開されていることと合致しています。

## 2 地域コミュニティ、豊かな絆を育む文化活動の充実

### ① 文化創造館運営事業について

- ・ 庄内町の芸術文化活動の拠点施設としての役割を果たすため、響ホール運営委員会、運営調整会議、芸術祭実行委員会、響ホール事業推進協議会、企画運営委員会等など、適宜開催し、町民の多様なニーズを把握しながら、好ましい状況で活動を推進している。
- ・ 芸術文化活動団体には、それぞれの立場からの種々の意見が多くだされ検討・調整するのが容易でない場合があるだろうが、そこをうまく連携して、事業の年間計画がバランスよく配慮されている。
- ・ 水彩画公募展については、水彩画のみの展覧会は、県内唯一であり、町が生んだ画壇の巨匠記念であり、継続していくべきだろう。第14回の今年度は、応募点数にして、平年並みであったが、南三陸町に募集案内したが出品が無かったのは残念である。また、入賞、入選の作品からみると、山形、米沢、鶴岡、酒田からの出品が多く、庄内町からは、2点のみというのはさびしい。今後、普及の面で課題となるだろう。児童生徒部門では、余目中学校の頑張り、努力が光っていた。
- ・ 栄寿大学については、外部からみると、文化創造館の主催事業としては異質の感がする。芸術文化活動推進のための人材育成のためというならば、理解できるが、高齢者の学習と交流を進めるためというのであれば、中央公民科、地区公民館等の事業のねらい、内容と同じであり、統合を検討してもよいのではないだろうか。
- ・ 地域の文化交流、人材育成の面からみて芸術祭の事業展開は、圧巻である。吹奏楽演奏会、コーラス発表会、民舞、美術展、写真展、書道展、バレー発表、茶会、生け花、短歌発表とあらゆる分野からの発表は、まさに町全体の祭である。
- ・ 響ホールのイベントで、主に注目したのは、古武道コンサート、渡辺真知子コンサート、沖仁コンサート、影絵公演であった。幼児、子ども、青少年、壮年高齢者とそれぞれの年代層のニーズに応えたイベント内容で好評を得て、入場者数もほぼ

予想通りだったようだ。

- ・ 多様な各種事業の展開と施設管理運営など、数少ないスタッフと職員で多大な業務をよくこなしていると思う。これも各民間団体やボランティアスタッフとの共同、連携がスムーズにしているからと思われる。
- ② 図書館運営事業について
- ・ 庄内町生涯学習推進基本計画「・生きがいつくり・人づくり・オンリー一のまちづくり」にのっとり、その具現化の一環として、庄内町図書館は位置づけがされている。図書館資料の充実、読書環境づくり、利用者へのサービス向上など、町民に身近に親しまれる運営に努力している。と同時に「庄内町子ども読書活動推進計画」も各関係機関と連携して着々と推進している。
  - ・ 来館するたびに目にするのは、手作りの新刊情報案内や特設掲示の工夫、読書相談などのレファレンスサービスである。職員の日常の創作活動のかたちが見える。
  - ・ 子どもが読書に関心を深め、本に親しむ機会を増やすために、図書館蔵書検索端末の利用を各学校とネットワークを図り実施しているのは、他にあまり見られないユニークな事業である。学校と連携を深め、利用を促進拡大していきたいものである。
  - ・ 本が好きな子どもがたくさんいる町をめざして、絵本はともだち事業「つちだよしはるさんのワークショップ」が3回開催されている。読み聞かせ、グラスに絵を描く、リースづくり、ボードづくりと豊富な内容を盛り込んで、まさに「ぶっくろ図書館」を展開し、子どもの豊かな体験を生んでいる。
  - ・ 「おはなしらんどポップコーン」による読み聞かせの会を参観した。参加した幼児と保護者の皆さん（30名位）の目の輝き、関心の高さに驚いた。歌ありクイズあり、寸劇あり、そして読み聞かせ、あっという間に時間が過ぎて、絵本の読後の満足感に浸った。
  - ・ 子どもの春休み、読書週間、夏休み期間などに特別貸し出しとして各小学校 幼児施設、各公民館に団体貸し出しを実施して、図書館の利用拡大を図っている。このことは他の図書館ではあまり聞かれない。
  - ・ 内藤秀因水彩画記念館は、今年度も、画伯の収蔵作品をテーマごとに展示したりして、集客拡大に工夫をこらしている。また、特別展も様々のものを展開して好評を呼んでいる。最も好評を得たのは、阿部智幸先生の水彩画展であった。

### 3 地域の自然や施設を活かした健やかにいきる健康づくりの推進

#### ① 外部指導者支援活動事業

- ・ スポーツの振興、体力づくりの強化等を充実していくためには、民間のスポーツ団体の活動、奨励だけでは発展進化は望めない。ましてや指定管理者制度の導入が確立していない町にあっては、やはり町（行政）が積極的に各関係機関、団体と連携を図り、効果的な組織体制をつくり取り組む必要がある。
- ・ また、中学校を中心とするスポーツの振興についても学校の教職員だけの指導では限界があり、外部指導者の支援なしには成り立たない現状にある。したがっ

て、指導者の安全保険加入や謝金等を考慮した町としての事業を起こし、環境を整えることは妥当なことと考える。

#### ② 新規事業「総合型スポーツクラブ」について

- ・ 「コメッチ・わくわくクラブ」のスタートであるが、スポーツ振興くじ助成は受けられず、町単独予算520万円を計上しての事業となった。一昨年から設立準備委員会を立ち上げ、広報活動、アンケート調査などを行い万全のスタートになった。
- ・ 積極的なPR活動を行い、会員募集をした結果、大人86人、子ども40人計126人の加入となった。クラブ活動内容をみると、テニス、卓球、キッズサッカー、トレッキング、スキーなど多様なスポーツが楽しめるようになっている。アンケート調査や指導者の確保など、どんな内容にするか、よほど検討した内容構成と思われるが、加入者の少なさを考えると、「よし、やってみよう」というセールスポイント的というか、特長的なものが無かったのかと思われる。
- ・ 「ひまわりマラソン」や「スポーツ in しょうない」などの単発であるが、スポーツ事業に対する予算が約160万円、各種スポーツ活動への支援に約800万円、体育協会への助成300万円などに比較すると、主に126人の会員による活動「総合型スポーツクラブ」の予算額520万円は果たして妥当なのかどうか検討を要すると考える。会員会費約34万円の使途はどうか、随時参加料を徴するのはどうか。

#### ② 各種スポーツ大会開催事業

- ・ 町民大学での生涯スポーツや町主催のスポーツ教室などを総合型スポーツクラブのあり方を踏まえて、吸収、統合して廃止していく方向に向かっているようであるが、当面、まだ時期尚早のように思われる。小規模単位の生涯スポーツは、気軽に、誰でも、身近に活動、交流できる良さがある。
- ・ 9月開催の「スポーツ少年団大会」「庄内町ひまわりマラソン」は大勢の参加者があって、目標達成に大きな成果をあげている。

### 4 教育の土台は家庭教育にあり

#### ① 青少年育成推進事業

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」は、子どもたちの生活リズムの確立と学力向上の基本となることを踏まえて、学校、PTA、地域、家庭が一体となって、その推進を図っていることは、町の「笑顔で元気なあいさつの町づくり」運動と連動して、望ましい企画と考える。
- ・ 庄内町の各公民館の重点目標と具体的施策には、どこにも必ず「青少年育成と家庭教育の充実」の項目があげられている。「子育てと教育」は行政まかせでなく、地域あげて、自主的に取り組む意識が大切で、それが、町全体それぞれの地域住民に徹底しているように感じとることができる。
- ・ 第二公民館では、「JYA元気っ子クラブ」「わくわく親子塾」を展開して、楽しい健全な体験活動の充実を図っている。また、「ひまわりっ子広場」「二公ランド」を子どもに開放し、自由遊び、なかまづくりに大きな成果をあげている。
- ・ 青少年育成事業で、特色ある内容で注目したのは、第四公民館の「すうぱー新鮮

組」と狩川公民館の「ワンパク学園」と「通学合宿」事業である。「すうぱー新撰組」は野外活動や体験活動、そして地域に残る歴史、文化に触れる学習などに取り組んだものである。体験だけでなく、学習したことを壁新聞にまとめあげ、公民館に公開展示しているのが光っていた。「ワンパク学園」は7回実施され、地域の自然や文化に触れ、郷土の理解を深めようというものである。「通学合宿」は2泊3日の実施で、親元を離れ、同年齢の子どもたちが共同生活をして過ごし、子ども同志の絆を深め基本的な生活習慣を身に付けようとするものである。いずれも地域ならではの特色を活かした企画であり、成果も大きく、今後も継続したいものである。

#### ① 生涯学習推進事業について

- ・ 旧立川地区には、30年もの間、継続してきた「松寿大学」という公民館活動事業がある。ねらいは一貫して「健康で生きがいのある生活づくり」にある。これは、誰でもが願うことであり、したがって60歳以上の方は、ほとんどが参加しているという驚異的な特色がある。狩川公民館では、今年度で30年間継続して学習し、終了した該当者には、名誉松寿賞を贈るという。

このように永年に亘って継続できたのは、大学生の大学生のための自主運営で実践してきた賜物と思われる。そのための組織体制がしっかり確立していて、当日の仕事、役割は輪番制でみんなで担当している。清川、立谷沢公民館も同様である。素晴らしい地域の連帯意識と学習意欲の高さをみる。

- ・ 7つある地区公民館は、それぞれの特色を活かして、地域住民の学習意欲を高揚しながら、多様な学習活動を展開している。どこに行っても月行事黒板は満杯であり、それだけ活性化しているといえるのであろう。特色あるものとして、例えば、①AV教材を利用した学習②陶芸創作活動③PC操作講座④歴史民俗学習⑤やまゆりスクール⑥地域民俗芸能ふれあい事業⑦地域の自然を活かした大学などがみられた。

#### 5 おわりに

社会教育分野といっても、広範囲の領域があり、調査・考察して評価するには、小範囲の数項目にならざるを得ないと思う。今回のように、年次的に評価項目を決めて実施していくのが妥当と考える。